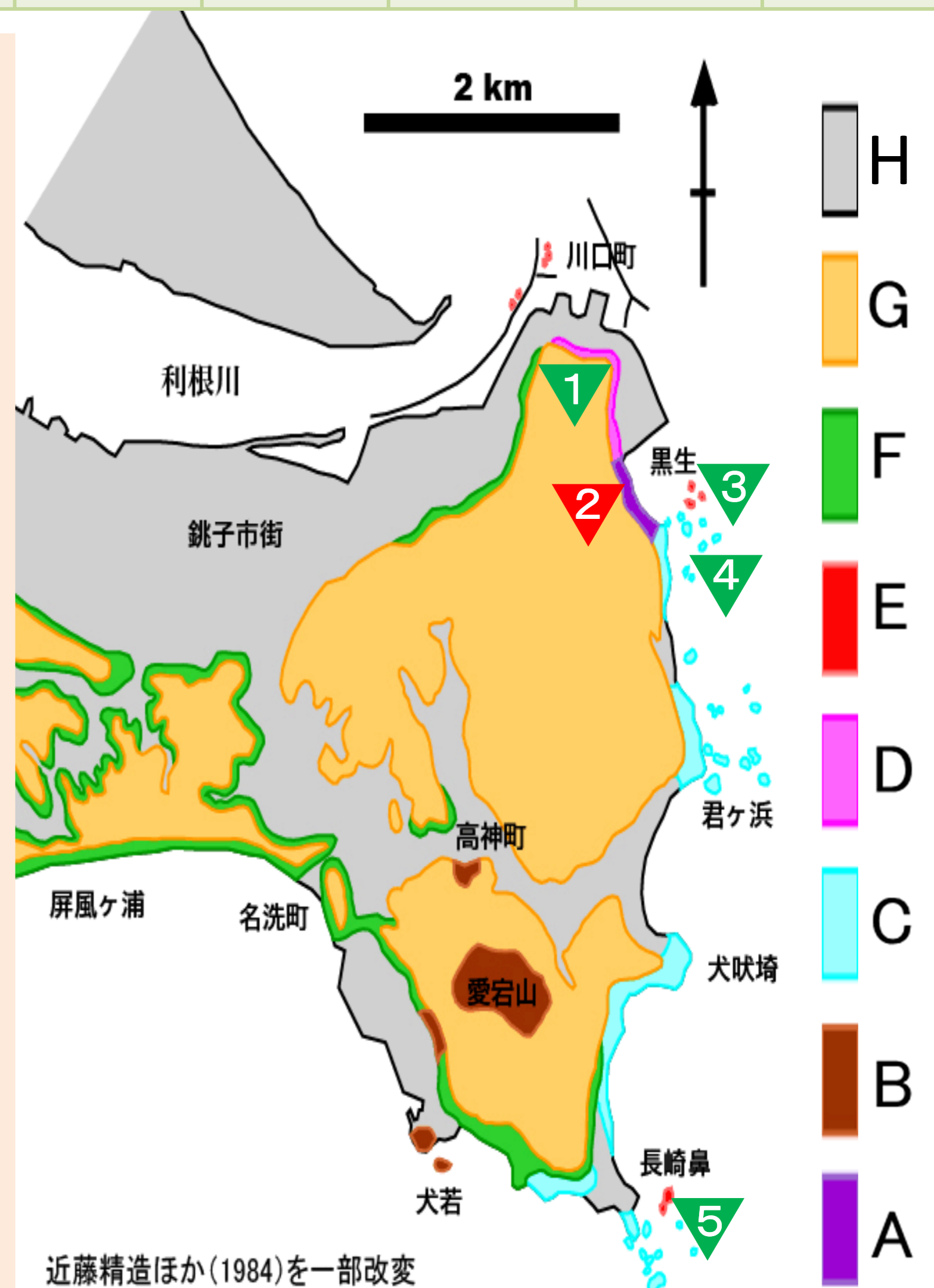




古生代			中生代				新生代						
デボン紀	石炭紀	ペルム紀	トリアス紀	ジュラ紀	白亜紀	白亜紀	古第三紀		新第三紀		第四期		
3.59億	2.99億	2.51億	2.00億	1.46億	9960万	6600万	5600万	3400万	2300万	530万	260万	1万	
					前期	後期	暁新世	始新世	漸新世	中新世	鮮新世	更新世	完新世

＜写真撮影地は、右地質図の 2、黒生漁港\_倉庫脇草地＞

- ▼ 将来において日本列島の部品となる島弧は、超大陸パンゲアの端、「南中国地塊」近辺にあり、初め、パンサラッサ海の低緯度帯にあったが、古太平洋プレートの移動とともに、5億年掛けて北上し、中生代・ジュラ紀には、現在の海南島近辺まで到達していたとされる。
- ▼ 銚子半島を含む関東山地は、ジュラ紀に、この島弧への付加体の一部として成長した岩体を基盤にしている。  
銚子半島には、このうち、愛宕山や犬岩・千騎ヶ岩など、約1億5,000万年前の岩体が露頭する部分があり、これらは愛宕山層群に属する。
- ▼ 海洋プレートの沈み込み時に生成される付加体には、海洋プレート上面が削り取られて陸側に付加したもの、嵐などにより海面下の大陸斜面が崩落して陸側に付加したもの、の両者がある。海成の碎屑物が陸源の碎屑物の中に、メランジュ状に取り込まれた場合は、レンズ状を呈することがある。
- ▼ 4,000mを超える深海底に堆積していた、放散虫(ラジオラリア)の死骸を含んだ珪酸塩質のチャートは、古生代～中生代のものが知られている。チャートは石英分に富み、黒曜石より硬い。
- ▼ 黒生チャートは、古太平洋プレートに乗って海溝に到達し、ジュラ紀に島弧への付加体となった。黒生チャートも、愛宕山層群に属する。  
黒生チャートからは、トリアス紀末(約1億8,000万年前)に絶滅したコドント(原始的な魚類の1種)が発見され、黒生チャートがトリアス紀以前に堆積したことが分かる。
- ▼ 古生代～中生代の境界を中心に、約2,000万年続いた生物大絶滅時代には、海底の酸素欠乏でチャート内鉄分が酸化せず、ペルム紀末からトリアス紀初めのチャートは緑味を帯びる。その後のチャートは、酸素の供給再開により、チャート内鉄分が酸化して赤味を帯びる。黒生チャートには双方の色味のものがある。



近藤精造ほか(1984)を一部改変

千葉県立中央博物館提供 <地質図の地質色分けの凡例>  
 A. 愛宕山層群(チャー)ト、B. 愛宕山層群(砂岩・泥岩)、  
 C. 銚子層群、D. 夫婦ヶ鼻層、E. 古銅輝石安山岩、  
 F. 犬吠層群、G. 香取層&関東ローム層、H. 沖積層